

(安田賞)受賞論文

施設が地域を変える

～西宮市の地域活動の現状と課題～

岡 本 香 織

序 章

私は生まれてからずっと姫路市で生活をしているが、最近姫路市において地域の活性化を目的にしたイベントが数多くなされるようになってきた。これは、姫路市だけの状況ではなく、他の自治体でも地域活性

化は重要な課題になっているのが実情であろう。

これからの地域コミュニティ政策を考える上で、住民の地域活動への参加状況、すなわち地域住民がどのような地域活動に参加しているか、またそれらに対してどのような評価をしているかということ把握することは、非常に大切なことである。

本稿では、住民の地域活動への自己評価、地域活動

「都市住民の居住地域別パーソナル・ネットワーク特性に関する調査」(以下、4都市居住類型別調査と略す)

～文部省科学研究費基盤研究B「都市化とボランティア・アソシエーションの実態に関する社会学的研究」および西宮市・関西学院大学プロジェクト『西宮研究』～

調査対象市：西宮市・松山市・八王子市・武蔵野市の4都市

調査対象：20歳以上の調査対象地の住民、合計2520名

(松山市：720名、西宮市：720名、八王子市：540名、武蔵野市：540名)

なお、回収が困難であると予想されたため、明治生まれの人は、サンプリングの際に除いた

調査方法：各市の居住特性カテゴリー別に代表的「町」または、マンション・団地を特定し、

選挙人名簿等を使ってサンプリングし、郵送法による質問紙調査を行った

調査対象地の選定：下記のサンプリングの原則をもとに、各市の市役所への聞き取り

調査によって調査対象地を決定した

サンプリングの原則：居住特特別地域カテゴリーを採用。居住特性を生かすため、

第I類型、第II類型のサンプリングでは、抽出されたサンプルが一戸建てである

ことを住宅地図で確認しながら標本抽出を行った

＜居住特特別地域カテゴリーの原則＞

第I類型---古くからの中心部住宅地一戸建て=土着型のいわゆる高級住宅地

各市2地区を町名で選定

第II類型---ニュータウン一戸建て=大規模開発による住宅地区(各市2地区)を町名で選定

第III類型---分譲マンション=平均的ファミリーマンション(3DK前後)

築年数10年前後で最低2棟以上ある民間分譲マンションを2～3選定

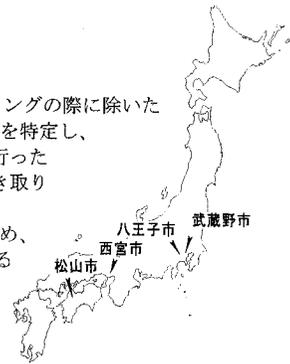
第IV類型---典型的公営住宅(市営・県営・都営)を2～3団地選定

調査期間：平成11年2月1日～2月28日

回収分析標本数：全体 954票/2520票 回収率37.9%

松山市 259票/720票(回収率36.0%) 西宮市 328票/720票(回収率45.6%)

八王子市 177票/540票(回収率33.0%) 武蔵野市 190票/540票(回収率35.0%)



「4都市居住類型別調査追跡調査」(以下、追跡調査と略す)

調査対象市：西宮市

調査対象：4都市居住類型別調査において回収した西宮市のサンプル328票の中から、下記の調査対象者の選定の条件を満たしている、81名

＜調査対象者の選定の条件＞

- ・回収した調査票の記入が全部なされている
- ・20代、70代以上は除く
- ・夫婦者で子供あり
- ・仕事を持っている(主婦を含む)

調査方法：上記条件に合う328票中81票に、4都市居住類型別調査の単純集計票と聞き取り調査のお願いを郵送。その結果、聞き取り調査に協力して頂けるというお返事を頂いた対象者のお宅に学生調査員が直接訪問し、回収した本人の調査票と照らし合わせながら聞き取り調査を行った。

*返送されたもの42通/81票(51.9%)、そのうち「調査に協力頂ける」に丸印があったもの7通/81票(8.6%)

この結果は、もはや聞き取りそのものが時代にそぐわない調査方法になっているのではないかという疑問を残すこととなった。

調査期間：平成11年9月20日～10月6日

回収分析標本数：全体 7票/81票(回答率8.6%) I類型…上甲東園 3票、II類型…なし、

III類型…イトーピア西宮北口 1票、公団武庫川団地 2票、IV類型…県営樋の口団地 1票

1) この方法については、大谷信介、木下栄二、後藤範章、小松洋、永野武 編著『社会調査へのアプローチ』(ミネルヴァ書房、1999年) p.139による

参加状況を関西学院大学社会学部大谷研究室が松山市・西宮市・八王子市・武蔵野市の4都市の住民を対象におこなった4都市居住類型別調査の結果をもとに把握し、その内容を分析することによって現状に即した西宮市の地域活性化策について考察をすすめていくことにする。

菊地美代志、江上渉『コミュニティの組織と施設』の中でコミュニティづくりのための住民組織として、「**町内会・自治会組織**を中心とするコミュニティづくり」と「**有志の組織**によるコミュニティづくり」「**学区・住区の組織**によるコミュニティづくり」の3点を挙げて²⁾。

「**町内会・自治会組織**」は、日本において最も典型的であり、日本文化を象徴する地域集団としても捉えられ³⁾、それに関連する「子供会」「青年会」「婦人会」「老人会」などの「年齢層別組織」、防犯、防災などの「行政協力組織」、そして「地域商店会や農家組合」などの「職業組織」といった諸団体を挙げることができる。また、「**学区・住区の組織**」であるが、「学区内の地縁型の住民組織の代表者が集って」作られたもので、今日では「学区協議会」「住区協議会」「住民協議会」「コミュニティ推進協議会」などの「学区規模の組織」が結成され今日に至っているものである。

そこで、地域におけるこれらの活動状況を把握するため、今回の「4都市居住類型別調査」において次のような質問文を盛り込んだ。

Q. あなたは、現在居住されているところの**地域活動**がどの程度盛んだと思われますか。(地域活動とは、町内会・子供会・老人会・コミュニティセンター・公民館活動などを総合的に判断してください)

今回の調査ではこの質問に対して「非常に盛んである」「まあ盛んである」「あまり盛んでない」「全く盛んでない」という4つの選択肢を用意したが、表1は松山市・西宮市・武蔵野市・八王子市のそれぞれ4都市の結果を整理したものである。「非常に盛んである」「まあ盛んである」という評価の合計を都市別にみると、武蔵野市77.0%、西宮市60.4%、八王子市49.7%、松山市49.4%という数字になっているように、都市ごとに χ^2 検定において有意の差が見られることが分かる。

この質問において、地域活動の定義を、「町内会・子

供会・老人会・コミュニティセンター・公民館活動など」と解釈を広くしたのはには理由がある。というのも、それぞれの都市には独自のコミュニティ政策があり、一概に地域活動といっても多種多様で、以下のようにそれぞれの事情が異なっていたからである。

・町内会（自治会）組織については、
〔松山市〕戦後GHQにより町内会は廃止され、現在でも町内会ははっきりしていないが、市民生活課の話によると、約1000の町内会があるのではないかとということであった。

〔西宮市〕全市的に町内会（自治会）が組織され、他の各種団体や小学校区毎に設置された西宮コミュニティ協会とともに地域の核となっている。

単位自治会数…414団体、単位自治会の連合体…24団体、加入世帯数…143,246世帯、市総世帯数…167,159世帯、加入世帯率…85.7%（『'99 地域団体等名簿』より）
〔八王子市〕町内会（自治会）は正確には把握されていないが市役所への聞き取り調査によると以下のような組織状況である。

町内会数…507団体、加入世帯数…142,784世帯

市総世帯数…201,985世帯、加入世帯率…70.7%

〔武蔵野市〕昭和22年3月、町内会は終戦後の時局に合わないとして廃止され、現在でも全的に町内会は存在しない。（『武蔵野市のコミュニティ』より）

また、「**有志の組織**」とは、『コミュニティの組織と施設』によると「地域の住民が異質化しニーズが多様化するなかで、共通のニーズをもつ人々が集って結成したもの⁴⁾」であり、言いかえると共通の趣味や目的のために個人が自発的に集まってグループ活動やサークル活動を行うといったボランティア・アソシエーション（以下、VA）を指すものである。最近では、VAは各地で非常に活発に行われており、「コミュニティづくりの担い手そのものとして重要」であると考えられる。そこで、本稿ではVAを新しい地域集団として位置付け、今回の調査において以下のような質問文をとり入れることで、個人レベルでの地域活動の一形態であるVAへの参加状況の把握を試みた。

Q. あなたは現在、習い事とは別に何らかのグループ活動やサークル活動（草野球の会・手芸の会・ボランティアサークル等、趣味や共通の目的のために仲間が集まって行っている活動）に参加されていますか。

表1. 4都市別「地域活動盛ん度」自己評価 P<0.001

	非常に盛んである	まあ盛んである	あまり盛んでない	全く盛んでない	合計
松山	6.6%(17)	42.8%(110)	45.9%(118)	4.7%(12)	100%(257)
西宮	8.4%(27)	52.0%(168)	33.1%(107)	6.5%(21)	100%(323)
八王子	4.1%(7)	45.6%(78)	42.7%(73)	7.6%(13)	100%(171)
武蔵野	18.7%(35)	58.3%(109)	19.8%(37)	3.2%(6)	100%(187)
全体	9.2%(86)	49.6%(465)	35.7%(335)	5.5%(52)	100%(938)

2) 菊地美代志、江上渉『コミュニティの組織と施設』（多賀出版、1998年）、p. 8～10

3) 近江哲男『都市と地域社会』（早稲田大学出版部、1958（1984）年）

4) 菊地美代志、江上渉『コミュニティの組織と施設』（多賀出版、1998年）、p. 9、10

表2. 4都市別 VA参加状況 P<0.005

	参加	不参加	合計
松山	31.9%(79)	68.1%(169)	100%(257)
西宮	43.5%(133)	56.5%(173)	100%(323)
八王子	37.9%(61)	62.1%(100)	100%(171)
武蔵野	47.8%(86)	52.2%(94)	100%(187)
全体	40.1%(359)	59.9%(536)	100%(938)

表2は、松山市・西宮市・武蔵野市・八王子市のそれぞれ4都市のVA参加状況を整理したものである。都市別でみると武蔵野市(47.8%)、西宮市(43.5%)、八王子市(37.9%)、松山市(31.9%)という結果になっており、これも都市ごとに χ^2 検定において有意差がみられる。また、これらVAの活動拠点として、施設は不可欠である。代表的な活動拠点施設として行政が地域住民の社会教育の場として設置している「公民館」、地域の実情に応じた多様な運営、管理が可能な「コミュニティセンター」などが挙げられる。しかし、これらの施設の整備状況も自治体により大きく異なっている。

・コミュニティセンターについては、
〔松山市〕総合コミュニティセンターが1館あるが、地域に根付いた地域コミュニティのための施設ではなく、健康増進や文化・情報、生涯学習の場として使われている。市による管理運営。

(松山市役所市民生活課への聞き取りより)

〔西宮市〕存在しない(西宮市役所聞き取り調査より)

〔八王子市〕存在しない(八王子市ホームページ⁵⁾より)

〔武蔵野市〕地域コミュニティ政策としてコミュニティセンターを各地に設置。地域コミュニティの拠点である

・公民館活動については、
〔松山市〕本館7ブロック33館、分館304。分館方式は特に松山方式として有名である。

(松山市教育委員会への聞き取り調査より)

〔西宮市〕1中学校区に1館の割合で計23館を設置

〔八王子市〕中央公民館、南大沢公民館、川口公民館の3つ(八王子市ホームページより)

〔武蔵野市〕「コミュニティシンポジウム報告書」での「レベルの高い武蔵野市民に、市の職員が講座を組んで偉そうに教えてやるという態度自体が間違ってい

る」という市長の言葉どおり、市側は公民館に対し徹底した反対論をとっており、1館も存在しない⁶⁾。

これからの地域の活性化を考える上で地域活動や住民のVA参加の現状を把握することは非常に大きな意味を持つ。しかし、この表1、表2の結果を見るだけでも、地域活動という概念や意味づけが地域によって大きく異なっていることが明らかである。このような地域の状況を勘案すると、量的な評価では対応できない部分を聞き取り調査などの質的な調査で補い、丹念に各地域の状況を押さえていくが必要になると考えられる。

そこで本稿では、「地域活動が盛ん」「VAに参加している」という評価の高かった西宮市と武蔵野市について取り上げ、中でも西宮市を中心に調査を進めることで「地域活動」と「VA」という2つの側面から地域活性化ということについて考えていきたい。

第1章 西宮市における地域活動と地域集団

(1) 西宮市における地域活動の概要

西宮コミュニティ協会「コミュニティの現況と課題～その後」(平成9年7月)によると、西宮市の地域団体の主なものとしては、自治会(単位自治会、単位自治会の連合体)、西宮コミュニティ協会⁷⁾、西宮市民生委員・児童委員会(民協)、西宮市環境衛生協議会(環衛)、西宮市青少年愛護協議会(青愛協)、西宮市社会福祉協議会(社協)、婦人会、老人会、地区体育振興会(体振)、子供会、PTA、防犯協会、西宮市公民館活動推進委員会、ボーイスカウト、ガールスカウトなどを挙げることができる⁸⁾。

その中でも、自治会組織については、「第3次西宮市総合計画」(西宮市、1998年)の「コミュニティづくり活動の促進」の中で、「市内各地域の自治会や町内会等の自治組織および福祉、教育など課題別に活動している地域団体が相互の連携を深め、コミュニティ活動が一層活性化されるよう支援する」また、「自治組織が結成されていない地域における組織化を促進する」と明確に記されている。西宮市で平成8年度に実施された「地域活動状況アンケート調査⁹⁾」においても、「貴地域コミュニティのリーダー(地域の各種活動を企画・実行する役員等)の出身母体は?」という質問に対し、

5) 八王子市の公式ホームページ (<http://www.city.hachioji.tokyo.jp/>) より

6) 武蔵野市「コミュニティシンポジウム報告書」1997年発行、p.69

7) 西宮コミュニティ協会の存在は西宮市のコミュニティ行政の特徴である。「コミュニティの現況と課題～その後」(平成9年7月、西宮コミュニティ協会)によると、西宮コミュニティ協会は住民の手による「新しい地域社会の創造」をめざし、「コミュニティづくり」を推進するため、全市的組織として、昭和54年8月に設立された。設立当初は16地域(芦原、今津、瓦木、北口、苦楽園、甲東、香戸園、甲陽、越木岩、夙川、津門、鳴尾、浜脇、春風、安井、用海)であったが、現在では新たに8地域(上ヶ原、神原、甲子園口、大社、名塩、生瀬、平木、広田、山口)が加わり、現在では全市25地域全てが参加している。この活動の一環として、住民の手によって地域情報誌「宮っ子」を20年間にわたり年10回の割合で発行している。

8) 西宮コミュニティ協会「コミュニティの現況と課題～その後」(平成9年7月)のp.9「コミュニティに参画している地域団体として、ほとんどの地域で掲げている団体には以下の団体がある」という記述に基づく。

9) 平成8年3月から4月にかけて以下の5項目について、西宮市内25コミュニティ地区を対象に行われたアンケート調査。22地域より回答がよせられた。(回答率は88%)

①地域活動状況②「宮っ子」の配布③「地域コミュニティ」の組織等④地域防災⑤その他(市および地域団体等の依頼による定期刊行物の配布状況)

回答をよせた19地域のうち実に17地域¹⁰⁾が自治会を筆頭に挙げていた。

この自治会の状況であるが、「'99 地域団体等名簿」(平成11年10月発行、西宮市)によると、平成11年度6月1日現在で、西宮市全421町のうち単位自治会が組織されているのが395町、いまだ組織されていないのが26町である。これをもとに計算すると単位自治会の組織率は93.8%にも及ぶ。同じく加入世帯数では、西宮市全体の世帯数167,159世帯のうち、単位自治会へ加入しているのは143,246世帯であり、この場合の加入率は85.7%である。

表3、表4は、このような状況をふまえ「'99 地域団体等名簿」の単位自治会の代表者名簿から、加入世帯数ごとに自治会を整理したものである。表3を見て

表3 西宮市の単位自治会の組織状況

世帯数による 単位自治会の規模	該当自治会数	該当世帯数の 合計
1000世帯以上	14自治会 (3%)	32,280世帯 (23%)
500世帯以上 1000世帯未満	75自治会 (18%)	49,204世帯 (34%)
100世帯以上 500世帯未満	211自治会 (51%)	55,496世帯 (39%)
100世帯未満	114自治会 (28%)	6,266世帯 (4%)
合計	414自治会 (100%)	143,246世帯 (100%)

表4 1000世帯以上から組織されている
単位自治会一覧

名称	加入世帯数
武庫川団地自治会	5643世帯
越木岩自治会	5600世帯
浜甲子園団地自治会	4613世帯
夙川自治会	2700世帯
越水自治会	2350世帯
上田自治会	1698世帯
浜甲子園町会	1374世帯
里中町自治会	1304世帯
北六甲台自治会	1298世帯
甲子園自治会	1250世帯
苦楽園自治会	1200世帯
笠屋町自治会	1150世帯
上ヶ原福祉会	1050世帯
上鳴尾町自治会	1050世帯

いただきたい。全自治会の3%である1000世帯以上の巨大な自治会が、加入全世帯数の23%を占めていることが分かる。また、500世帯以上の自治会も合わせて考えると、全世帯の57%がその中に含まれている。

さらに、表4をみると5000世帯をはるかに超える単位自治会も存在している。これらは、もはや町内会の規模を超えるコミュニティ組織であるといえるだろう。しかも、これは、単位自治会の状況であって、さらに単位自治会の連合体¹¹⁾まで存在するのである。巨大な自治会組織の存在は、西宮市の地域コミュニティの特色といえるのではないだろうか。

(2) 4都市居住類型別調査における西宮市の地域活動状況

今回の4都市居住類型別調査は、これまでの調査と異なる点として、全市ランダムサンプリングを行わず、居住特性別にサンプルを割当てることによって、居住地域特性別の近隣関係・友人関係・グループ・サークル活動参加状況・地域活動度等の特徴を明確化することを試みた。そのため、「地域活動が盛ん」という評価には、それぞれの調査地点ごとの特徴が表れているものと考えられる。

表5は、今回の調査の質問項目である「地域活動盛ん度」自己評価について、西宮市の居住類型・居住地域ごとに結果を整理したものである。これをみると、地域によって評価に大きなばらつきがあることがわかる。例えば、「地域活動が非常に盛ん」という評価の高い地域は、苦楽園ヒルズ(越木岩)21.7%、公団武庫川団地(鳴尾)13.9%、北六甲台(山口)13.6%という結果になっている一方で、市営大社町B団地では「地域活動があまり盛んでない」という評価が77.8%という状況である。

その一方で、地域活動が「盛んである」という判断は、個人の自己評価であり、客観的な評価であるとはいえないのではないかとこの疑問が残る。すなわち、個人が地域活動に求めるものは千差万別であり、同じ地域活動でもそれに対する満足度もそれに対する判断の基準も個人差があって然るべきではないかという問題である¹²⁾。

しかし、地域ごとに大きな違いがみられる住民の評価も、地域内においては集団としての共通性や方向性がみられるのも今回の調査の特徴である。例えば、上甲東園や夙川では「あまり盛んでない」という評価を軸に、「まあ盛んである」「全く盛んでない」という構造になっているし、北六甲台や武庫川団地でも「まあ盛んである」という評価が軸になって地域内においての評価がまとまっていることが分かる。これらのことから、「盛ん」「盛んでない」という住民の評価はある程度の尺度にはなりえているものと考えられる

10) 瓦木、北口、浜脇、安井、甲陽、香櫨園、上ヶ原、神原、甲子園口、甲東、越木岩、夙川、苦楽園、津門、用海、生瀬、鳴尾の以上17地域である。ちなみに、大社、春風は社協、青愛協を挙げていた。

11) 西宮市「'99 地域団体等名簿」(平成11年10月発行)から、単位自治団体(自治会・町内会・福祉会)の連合体の中で加入世帯数が群を抜いて多いものを挙げておく。
 鳴尾連合自治会…鳴尾支所館内(39自治会)、42,000世帯
 社会福祉協議会甲東支部…甲東支所管内(上ヶ原小・上ヶ原南小学校を除く)、10,351世帯
 高須自治協議会…高須町全域、8,744世帯

12) 要求水準の差を表すものとして、本人の学歴、ライフステージと「地域活動が盛ん」という自己評価のクロス集計を試みたが、 χ^2 検定においても有意な差がみられなかった。

表5 西宮市の「地域活動盛ん度」自己評価 (注) %の後の()は度数を表す

地域活動自己評価 居住類型*		非常に盛んである	まあ盛んである	あまり盛んでない	全く盛んでない	合計
I	上甲東園(上ヶ原)		29.5%(13)	52.3%(23)	18.2%(8)	100%
	夙川(夙川)		26.5%(9)	47.1%(16)	26.5%(9)	100%
II	北六甲台(山口)	13.6%(6)	68.2%(30)	18.2%(8)		100%
	名塩南台(名塩)	11.8%(6)	60.8%(31)	27.5%(14)		100%
III	公団武庫川団地(鳴尾)	13.9%(5)	63.9%(23)	22.2%(8)		100%
	苦楽園ヒルズ(越木岩)	21.7%(5)	43.5%(10)	30.4%(7)	4.3%(1)	100%
	イトーピア西宮北口(平木)	2.7%(1)	54.1%(20)	37.8%(14)	5.4%(2)	100%
IV	市営大社町B(大社)		22.2%(2)	77.8%(7)		100%
	県営西宮樋之口(甲東)	10.0%(1)	90.0%(9)			100%
	県営西宮北口(瓦木)	5.6%(1)	55.6%(10)	38.9%(7)		100%
	市営上ヶ原8番町	11.8%(2)	64.7%(11)	17.6%(3)	5.9%(1)	100%
西宮の合計		8.4%(27)	52.0%(168)	33.1%(107)	6.5%(21)	100%

*居住類型 ()はそれぞれの地域エリアを表す

P<0.001

(3) 聞き取り調査からみる西宮市の地域活動状況

巨大な自治会組織の存在は、西宮市の地域コミュニティの特色であると先に述べたが、実際の自治会の活動状況と今回の調査結果との関連はどのようになっていのだろうか。

この手がかりとなるのが、10月6日(水)に行った県営西宮樋之口住宅の住民への追跡調査である。県営西宮樋之口住宅は、表3からも地域活動が「非常に盛んである」と評価している人が10%(1人)、「まあ盛んである」と評価している人が90%(9人)と、サンプル数は少ないが地域活動が盛んであるという評価の高いところでもある。この追跡調査においても、自治会の活動が多岐にわたって盛んに行われていることが明らかであった。

*追跡調査による県営西宮樋之口住宅の住民への聞き取りから

「…県営西宮樋之口住宅は清掃がゆきとどいている県営住宅として表彰されたぐらい、環境美化に力が入っている団地である。清掃をしきっているのが自治会。また、中央の広場(ピロティ)にみんなが集まって、夏は盆踊り、バーベキュー、花火、そのほかにも餅つきなど様々な行事が行われているが、これを企画したり運営しているのも自治会である。」

さらに、「地域活動が盛ん」ということについて、行政ではどのような捉え方をしているのだろうか。そこで、10月19日から3回にわたって西宮市役所の地域振興課の黒田課長へ西宮市の地域活動の状況についての聞き取り調査を行った。その結果、市役所が「自治会活動が盛ん」という認識を持っている地域(越木岩・鳴尾・北六甲台)と、今回の4都市居住類型別調査において住民の「地域活動が非常に盛んである」という評価の高い地域(苦楽園ヒルズ、公団武庫川団地、北六甲台、表5参照)とがそれぞれ一致していることがわかった。

*西宮市役所地域振興課課長 黒田さんへの聞き取りから

西宮市では現在市内を25の地域エリアに区分しており、そのエリアに基づく広い範囲での地域の特性であるというお断りのもと意見をいただいた。その結果をまとめたのが表6である。この中で、黒田さんは特に地域活動が盛んな自治会として「越木岩」そして「鳴尾(武庫川団地)」「北六甲台」を指摘された。

今回の4都市居住類型別調査において住民の「地域活動が非常に盛ん」という評価が高く、市役所の地域振興課の方も認識されていた「越木岩」「武庫川団地」

表6. 西宮の地域特性

上ヶ原(上甲東園・市営上ヶ原八番町団地)
…地区エリア(上ヶ原1~10番地)がかなり広いため地域差が大きい。また、地域施設が点在しており利用ににくい面がある

夙川…震災の被害が大きかった地域の一つだが、自治会が主となり自治会館の再建、掲示板の設置など積極的にまちづくりを進めている。

山口(北六甲台)…住民の意識が高くまとまりがよい。

名塩(名塩南台)…まだ開発途中で、町として成熟していない

鳴尾(武庫川団地)…住民のまとまりがよい。

越木岩(苦楽園ヒルズ)…規模が大きい。商店も一緒になって町おこしをしている地域で、地域活動が盛んな市内有数の地域である。

平木・北口(イトーピア西宮北口)…まだ再開発の途中。

大社(市営大社町B)…地域の連絡協議会がない。住宅管理だけのつながりで横のつながりが弱い。

甲東(県営西宮樋之口)…連合自治会がH11.10.20に発足。校区が混ざり合っていることによって、まとまりに欠ける面もある。

瓦木(県営西宮北口)…無特性。まだ、田畑があるような地域で、伝統やしきたりを重んじるところがある。

西宮市役所地域振興課黒田課長への聞き取りより「北六甲台」という地域はどのような地域活動がなされているのだろうか。

そこで、地域振興課黒田課長のおっしゃるところの市内有数の「地域活動が盛ん」な地域である「越木岩」と「北六甲台」の地域活動の実態について、それぞれの自治会長さんに聞き取り調査を行った。

～越木岩の事例

***越木岩自治会の概要**

5600世帯、16の町を束ねる巨大な単位自治会であり、その範囲は、3つの小学校区（北夙川小学校は全校区、夙川小学校は4町、苦楽園小学校は3町）にまたがる。

***越木岩自治会の昨年の活動**

- 1月…新年の交礼会（120人くらいが集まる）
- 3月…予算、事業計画
- 4月…決算報告（総会にて予算・事業計画の承認）
- 5月…コミュニティ協会の総会
- 6月…クリーン作戦（全国環境月間にあわせて）
- 8月…サマーフェスティバル
2日間にわたって催され、3万8000人が集まる。
青年会が実働。（財）越木岩会からの資金援助。
- 9月…越木岩神社のだんじり祭り
20～40才の青年会、20才までのジュニアが中心
- 10月…体育祭
親と子が参加できるファミリースポーツが中心
- 12月…年末警戒
交番と連携して迷惑駐車を取り締まり
- *毎年10月に自治会友の会の旅行がある

***越木岩自治会長 矢田厚さんへの聞き取りから**

昭和45年に地域住民の福祉の促進のために創設された財団法人越木岩会が、水利権といった区有財産を管理し年間一千万円の寄付を自治会に行くことで¹³⁾、独自の財源を持っている。このことが越木岩の活発な地域活動を支えている大きな要因のひとつであろう。
「人の輪、地域の輪、コミュニケーションの輪」を基本コンセプトに、地域活性化には、若いエネルギーが重要であるという考えのもと、青年会を実働としてサマーフェスティバル（3万8千人が集まる）や越木岩神社のだんじり祭りを行ったり、親子のふれあいの場として体育祭を行っている。
震災後、自主防災会を中心に防災基金を積み立てたり、子供にも防災の意識を向上させるために、陸上自衛隊、婦人会、ボーイスカウトとも連携して実践訓練も行っている。また、小学校とも協力をし、余裕のある教室を利用することで北夙川ボランティアセンターも設立された。

～北六甲台の事例

***北六甲台自治会の概要**

北六甲台は、大規模宅地開発によって作られたニュータウンで、今年で完成10年を迎える。北六甲台自治会は、北六甲台1～5丁目（4丁目4番から10番を除く）

の1298世帯を束ねる単位自治会である。自治会のもとに各種団体¹⁴⁾があるという図式である。

***北六甲台自治会の昨年の活動**

夏に行われた盆踊りが最大のイベントであった。会場の公園には人があふれ、山口と北六甲台の幼稚園児150人が「だんご3兄弟」を踊るなど、例年にまして賑やかなものとなった。地域の福祉施設との交流も進んでいる。その一方で、参加者が少ないということによって運動会は4、5年前から消滅しているようだ。

***自治会長 浅田忠剛さんへの聞き取りから**

自治会費は1ヶ月あたり400円で、年間約600万円の活動資金が集まる。これをもとに各種団体に活動予算が振り分けられているが、何をするにも1000世帯を超える大規模な自治会なので、活動資金を工面することが難しい。そのため、今までは人を雇っていた自治会館の運営を、婦人会に協力を求めるなどいろいろな案を練っている。

これらの聞き取り調査から分かったことは、「地域活動が盛んである」という評価の高かった越木岩自治会も北六甲台自治会も、巨大な単一自治会であるという特色を生かして地域の中心となり、各種団体とも連絡をとりあいながら、積極的に地域のための行事を企画・運営・実行しているという事実である。すなわち、今回の調査で「地域活動が盛んである」という評価の高かった地域では、自治会とその関連団体をベースにした活発な活動が行われていたということが分かる。

第2章 西宮市におけるVA活動と地域施設の問題

前章では、西宮市では同一地域内において地域活動に対する評価に共通性や方向性がみられたということ、また「地域活動が盛んである」という評価の高い地域では、その活動が自治会ベースで行われていたということが住民や自治会長、市役所への聞き取りなどを通して分かったことである。

最近では、町内会・自治会といった既存のフォーマルな地域集団とは別に、共通の趣味や関心を通じてのグループ・サークル活動といったインフォーマルな横のつながりを基礎とする集団、すなわちボランティア・アソシエーション（以下、VA）の活動が非常に盛んになっており、地域への影響力も大きなものになっている。しかし、地域社会におけるグループ・サークル活動やそれらの団体を正確に把握するのは非常に困難であるため、これまでVAを把握しようとする実証的研究はほとんどなされてこなかった。横浜市立大学市民文化研究センターは横浜市における施設利用のVAについての実態調査を行っているが、これは大都市圏の一都市という限られた地域のみを対象にしたものであり、全国的に状況が把握できるものではない。

そこで、本章では4都市居住類型別調査の結果を通して、西宮市のVA活動の状況について詳しくみていきたい。

13) 牧野厚「財産区とまちづくり」『まちづくりとコミュニティ施設』塚塚市・関西学院大学地域環境研究室1995年、「この財産区はコミュニティ施設の管理や自治会などへの資金補助を通じて地域組織と密接な関わりをもっている」という塚塚市の財産区と同じ状況であると考えられる。
14) 西宮コミュニティ協会、西宮市青少年愛護協議会（青愛協）、西宮市社会福祉協議会（社協）、婦人会、老人会、地区体育振興会（体振）、子供会、PTA など

(1) 西宮市のVA参加状況

表7は今回の調査結果をもとに、西宮市の居住類型ごとにVAへの参加度合と「地域活動盛ん度」自己評価を整理したものである。このときの「地域活動が盛んでない」という評価は「あまり盛んでない」「全く盛んでない」という評価を合わせたものである。

これをみると、西宮市では「地域活動が盛ん」という評価の高い地域で、VAへの参加度合が高くなっていることを指摘できる。例えば、地域活動が「非常に盛んである」という評価の高かった北六甲台、公団武庫川団地、苦楽園ヒルズのVA参加度合は揃って低調（それぞれ41.9%、37.1%、30.4%）であるという結果であった。すなわち、地域という広い範囲での地域活動は盛んであるかもしれないが、個人の地域活動への参加形態であるVAは活発に行われていないということが分かる。その一方で、夙川（63.3%）、市営大社町B団地（62.5%）、県営西宮北口高層住宅（53.3%）のVA参加度合が高くなっている。なぜ、今回の調査において「地域活動が盛ん」という評価の高かった地域では、個人の地域参加の一形態ともいえるVA活動が活発に行われていないのだろうか。

ここで、まず考慮しなければならないのは、VA活動とその活動拠点となる地域施設とは密着な相互関係があるという点である。そこで、西宮市の地域活動の拠点となる施設の整備状況について、さらに詳しくみていく必要があるだろう。

(2) 西宮市の地域施設の概要

市役所地域振興課への聞き取り調査によると、西宮

市には、市民の学習・文化・スポーツ活動、また市民の自主的な活動の場として以下のような施設がある。

* 公民館

平成11年度現在で2拠点館（中央公民館・鳴尾公民館）、1独立館（若竹公民館）、21地区館¹⁵⁾を合わせて合計24公民館が設置されており、「第3次西宮市総合計画」によると「地域における社会教育の拠点として、活発な公民館活動が展開されている」模様である。全24館を合わせた建築総延面積は22,864m²（1館あたりの平均は952.7m²）で、講堂、集会室、和室、実習室といった構成になっている。

* 地区市民館

「西宮市の市民集会施設1999年版」によると、地区市民館は「本市住民の地域社会における相互の親睦及び文化活動の増進のため設置されたもの¹⁶⁾」であり「地域住民の集会、親睦、娯楽の場としてご利用頂きたい」と記されている。現在では20館・1分館¹⁷⁾がそれぞれ整備されている。全21館を合わせた建築総延面積は6,650.36m²（1館あたりの平均は316.7m²）で、基本的に和室・会議室・集会施設が各1～2部屋（一部、調理室も完備）という構成になっている。

* 共同利用施設

「西宮市の市民集会施設1999年版」によると、「公共用飛行場周辺における航空機騒音により、日常生活が著しく阻害されている地区の住民の学習、集会、休養および保育のために運輸省の補助により設置されたもの」とされており、運輸省の建設補助により建築されたものである。現在では10館¹⁸⁾が整備されており、全10館を合わせた建築総延面積は5,236.84m²（1館あた

表7 西宮市のVAへの参加度合と「地域活動盛ん度」

自己評価P<0.001

居住類型	地域活動自己評価	VAに 参加	VAに 不参加	「地域活動盛ん度」自己評価			合計
				非常に盛ん	まあ盛ん	盛んでない	
I	上甲東園(上ヶ原)	46.3%(19)	53.7%(22)	0%(0)	29.5%(13)	70.5%(31)	100%
	夙川(夙川)	63.3%(19)	36.7%(11)	0%(0)	26.5%(9)	73.5%(25)	100%
II	北六甲台(山口)	41.9%(18)	58.1%(25)	13.6%(6)	68.2%(30)	18.2%(8)	100%
	名塩南台(名塩)	46.9%(23)	53.1%(26)	11.8%(6)	60.8%(31)	27.5%(14)	100%
III	公団武庫川団地(鳴尾)	37.1%(13)	62.9%(22)	13.9%(5)	63.9%(23)	22.2%(8)	100%
	苦楽園ヒルズ(越木岩)	30.4%(7)	69.6%(16)	21.7%(5)	43.5%(10)	34.8%(8)	100%
	トピア西宮北口(平木)	34.3%(7)	65.7%(23)	2.7%(1)	54.1%(20)	43.2%(16)	100%
IV	市営大社町B(大社)	62.5%(5)	37.5%(3)	0%(0)	22.2%(2)	77.8%(7)	100%
	県営西宮樋之口(甲東)	45.5%(5)	54.5%(6)	10.0%(1)	90.0%(9)	0%(0)	100%
	県営西宮北口(瓦木)	53.3%(8)	46.7%(7)	5.6%(1)	55.6%(10)	38.9%(7)	100%
	市営上ヶ原8番町(上ヶ原)	25.0%(4)	75.0%(12)	11.8%(2)	64.7%(11)	23.5%(4)	100%
西宮の合計		43.5%(133)	56.5%(173)	8.4%(27)	52.0%(168)	33.1%(107)	100%

15) 山口公民館、大社公民館、甲東公民館、塩瀬公民館、夙川公民館、浜脇公民館、用海公民館、段上公民館、神原公民館、越木岩公民館、高木公民館、上ヶ原公民館、西宮浜公民館、鳴尾東公民館、南甲子園公民館、今津公民館、上甲子園公民館、春風公民館、学文公民館、瓦木公民館、高須公民館の以上20館である。

16) 西宮市市民局地域振興部地域振興課「西宮市の市民集会施設1999年版」、p.2

17) 西宮市市民局地域振興部地域振興課「西宮市の市民集会施設1999年版」によると、網引市民館、市庭市民館、今津南市民館、上ヶ原市民館、大箇市民館、柏堂市民館、神原市民館、北甲子園口市民館、苦楽園市民館、甲陽園市民館、甲子園口市民館、香櫨園市民館・分館、夙川西市民館、夙東市民館、中市民館、生瀬市民館、平木市民館、安井市民館、八ツ松市民館、六軒市民館が整備されている。

18) 西宮市市民局地域振興部地域振興課「西宮市の市民集会施設1999年版」によると、上甲子園センター、瓦林センター、北瓦木センター、小松センター、甲東センター、高木センター、段上センター、鳴尾センター、鳴尾中央センター、浜甲子園センターが整備されている。

りの平均は523.7m²)である。施設も集会室、学習室、休養室(和室)、保育室などから構成されており、その使用料も無料である。

***安心コミュニティプラザ**

平成7年の阪神・淡路大震災による被災地復興支援の「地域のコミュニティ拠点等に対する支援」の事業の一部で、高齢者、障害者等を支援する福祉コミュニティづくりの推進拠点施設の設置費用の補助により建設されたものである。これらは、地域の公共的団体(自治会等)が設置の要望を出し設置されるもので、完成後の運営管理もすべて地元が行うこととなっている。現在安心コミュニティプラザは10館¹⁹⁾が設置されており、全10館を合わせた建築総延面積は2,318m²(1館あたりの平均は231.8m²)である。

以上のVA・地域活動の拠点となる施設について、西宮市役所で頂いた資料をもとに今回の調査対象地域ごとに整理したのが表8の「西宮市における地域別VA・地域活動の拠点となる施設一覧」である。西宮市では地域コミュニティ育成のため25の地域区分をしている

が、それと小・中学校校区というのが必ずしも一致していないため、調査対象地域において施設がどれだけあるか、どこにあるかということも、地図上で確認をしながら、小・中学校の校区を基本単位にして星印で表した。

この表8から、地域によって施設の整備状況に大きな差が見られるということが分かる。例えば、夙川では小学校区内に公民館、市民館、安心コミュニティプラザの3館が整備されているが、市営上ヶ原8番町住宅では小学校区内には全くそれらの施設が整備されていない。この結果と表7の西宮市のVAへの参加度合を比べてみると、小学校区内にある地域施設の数が多い夙川では、VAの参加度合いも63.3%と他の地域よりも高く、逆に施設の整備状況が最も悪い市営上ヶ原8番町では、25.0%と最低を示している。

また、これらの施設の設置基準については「第3次西宮市総合計画」(西宮市、1998年)において「コミュニティの活動拠点となる公民館、共同利用施設、市民館等の地域施設については、おおむね小学校区にいずれか1館を配置する²¹⁾」と明確に記されている。しか

表8 西宮市における地域別VA・地域活動の拠点となる施設一覧

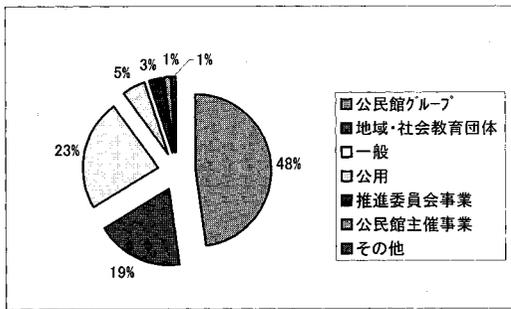
*平成12年3月に竣工の予定である

施設名 居住類型(町名)		VA・地域活動の拠点となる施設 ★小学校区内 ☆中学校校区内 無星は地域内にあることは確かだが ²⁰⁾ 、小学校区内か中学校区内か特定できないもの				
		公民館(館名)	市民館(館名)	共同施設 (施設名)	コミュニティ プラザ(プラザ名)	その他
I 類型	上甲東園 (¹ 1・2丁目)	★(甲東)上 甲東園2丁目	★(上ヶ原) 上ヶ原3番町	☆(甲東)甲東 園3丁目		
	夙川(殿山・雲井・ 名次・南郷)	★(夙川) 羽衣町	★(夙川西) 大谷町		★(夙川) 羽衣町	★自治会館
II 類型	北六甲台 (¹ 1~5丁目)	☆(山口) 山口町			★(北六甲台)* 北六甲台3丁目	★自治会館
	名塩南台 (¹ 1~4丁目)	☆(塩瀬) 名塩新町			☆(清瀬台) 清瀬台	
III 類型	公団武庫川団地(高 須町1・11)	☆(高須)高須町 2丁目			★(高須)高須町 1丁目1・12	自治会館 文化施設
	苦楽園ビバ (樋之池27)	★(越木岩) 樋池町5	☆(苦楽園) 苦楽園5番町			自治会館
	トピア西宮北口 (両度町2丁目)	★(中央) 両度町	☆(平木) 大畑町		★(青木) 青木町	厚生事業会 館・自治会館
IV 類型	市営大社町B (大社町8)	☆(上ヶ原) 六軒町	★(広田山荘) 大社町8			いこいの家 自治会館
	泉宮西宮樋之口 (樋之口2丁目)	★(瓦木) 瓦林町8				文化施設 自治会館
	泉宮西宮北口 (高畑町2丁目)	★(若竹) 西福町				厚生事業会館 自治会館
	市営上ヶ原 8番町(上ヶ原*)	☆(上ヶ原) 六軒町				

「西宮市の市民集会施設 1999年版」、「コミュニティの現況と課題~その後」より作成

- 19) 夙川自治会安心コミュニティプラザ、今津コミュニティプラザ、高須コミュニティプラザ、あけぼのコミュニティプラザ、上田安心コミュニティプラザ、清瀬台安心コミュニティプラザ、染殿コミュニティプラザ、青木町コミュニティプラザ、北六甲台コミュニティプラザ、花の峯コミュニティプラザの計10館である
- 20) 西宮コミュニティ協会「コミュニティの現況と課題~その後」(平成9年7月)のp.5「貴地域コミュニティ・エリアの集会施設を調査してください(県住宅供給公社集会室等のほか施設利用料、冷暖房費を納入すれば使用な施設も調査してください)」という調査項目の回答結果に基づく。
- 21) 西宮市「第3次西宮市総合計画(原案)基本構想・基本計画」(平成10年)、p.61

表9 西宮市の公民館利用状況(平成10年度)



し、地域によって施設の配置状況に偏りがあるのが現状である。

その一方で、これらの施設の中で、どの地域にも配置されており、1館あたりの平均延床面積も952.7m²と他のどの施設より広いのが(施設概要参照)公民館である。

西宮市立公民館「公民館活動実践集」によると、平成10年度の西宮市全体の利用件数は43,555件で、利用者数は882,246人になっている。表10は、平成10年度の公民館利用状況の内訳をグラフで表したものである²²⁾。これをみると、**公民館グループ**の利用がほぼ半数を占めていることがわかる。この**公民館グループ活動**であるが、これは生涯学習活動の一環として、西宮市立公民館を定例的に使用している住民の自主的な活動グループのことを指す。公民館グループとして公民館に登録すると、公民館の使用料が通常の50%減額となるというメリットがある²³⁾。平成9年度の公民館グループの利用状況は全体の37%であったが²⁴⁾、平成10

年度においては全体の48%を占めるなど、その活動はますます盛んになっているといえる。また、『第3次西宮市総合計画』(西宮市、平成10年)の「公民館活動の現況と課題」においても、「**市民の自主的なグループ活動が各公民館で活発に展開されている**」と記されていることから、公民館は西宮市民のVA活動の中心となる身近な施設のひとつとして考えてよいであろう。そこで、公民館の現状について詳しく見ていくことにする。

(3) 西宮市の公民館活動の状況

まずは、各地区公民館の個別の利用状況を知る必要があるため、中央公民館の石島館長に聞き取り調査を行った。

***中央公民館 石島館長への聞き取りから**

石島館長の話によると、一部中学校区と公民館が一致していないところもあるが、現在、西宮市には中学校が21校で、公民館が24館という状況であり、**おおむね各中学校区内に1館の割合**という同じ条件で公民館が設置されているということであった。

石島館長の聞き取りの中で出てきた、**1中学校区に1館**という公民館政策であるが、『第3次西宮市総合計画』(西宮市、平成10年)の「公民館活動の現況と課題」においても、「本市の公民館は、**1中学校区に1館の割合**を目標に整備を進めてきた。この目標はおおむね達成している」と記されていることから、西宮市の公民館設置の基本方針であることは明らかである。

次に、各地域ごとの公民館グループの状況について詳しくみてみよう。

表10 西宮市における地域別公民館利用状況

★小学校区内 ☆中学校区内

居住類型	公民館グループの状況	地域にある公民館名	公民館グループ(平成11年度現在)				総利用件数(*1)(*2)
			団体数	会員数	のべ利用件数(*1)	のべ利用者数(*1)	
I	上甲東園	★甲東	42	746	1,262	18,524	2,409
	夙川	★夙川	47	806	1,188	16,450	2,508
II	北六甲台	☆山口	16	274	379	4,984	986
	名塩南台	☆塩瀬	23	430	695	10,544	1,665
III	公団武庫川団地	☆高須	17	349	678	12,400	1,589
	苦楽園ヒルズ	★越木岩	24	497	870	15,716	1,825
	イトーピア西宮北口	★中央	67	1,510	1,697	28,616	3,563
IV	市営大社町B	☆上ヶ原	18	315	579	7,816	1,106
	泉営西宮樋之口	☆段上	32	542	830	11,392	1,633
	泉営西宮北口	☆瓦木	31	509	1,049	13,245	1,758
	市営上ヶ原8番町	☆上ヶ原	18	315	579	18,524	1,106

(*1)それぞれ平成11年3月末現在の累計

(*2)館外活動を含む全ての活動の累計

22) 西宮市立公民館「公民館活動実践集」1998年版のp.115「公民館利用状況表」をもとに作成

23) 「平成11年度西宮市公民館グループ名簿」(西宮市立公民館)の西宮市立公民館グループグループ活動要綱には、その登録条件として次のことが挙げられている。

- ①10名以上の会員で構成されていること
- ②半数以上の会員が市内在住、在勤または在学であること
- ③同一公民館において、おおむね6ヶ月以上の活動実績を有すること

24) 西宮市「第3次西宮市総合計画(原案)基本構想・基本計画」(平成10年)、p.140の「公民館利用状況」に基づく。

表10は、公民館グループ数、会員数は「平成11年度西宮市公民館グループ名簿」（西宮市立公民館）から、利用件数や利用者数は「公民館別利用統計」（平成11年3月末現在）をもとに、各調査地域ごとに整理したものである。

これによると、「地域活動が盛ん」という評価は極めて低い（表7参照）、小学校区内の施設の数が多く（表8参照）、VAの参加度合いも高かった（63.3%、表7参照）夙川地域で最も公民館グループの数も総利用件数も多くなっており、逆に「地域活動が盛ん」という評価が高い（表7参照）、VA活動が低調であった（41.9%、表7参照）北六甲台においては、公民館グループ数も、公民館利用件数も他と比べると圧倒的に少なく、夙川とは対照的な結果になっている。なお、両度町にある中央公民館もグループ数が多くなっているが、これは西宮市の公民館活動において中心的な役割を果たしているという意味で、参考程度に見ておいた方がいだろう。

これらのことから、**1中学校1公民館**という原則は共通であるのに、このように公民館の利用状況に大きな差がみられるということと、地域によってVAの参加度合いが大きく異なるということは何らかの関連性を持っているのではないだろうか。そこで、対照的な結果であった夙川と北六甲台の状況について詳しく調べていくことにする。

(3) 事例調査からみる施設とVAとの関連

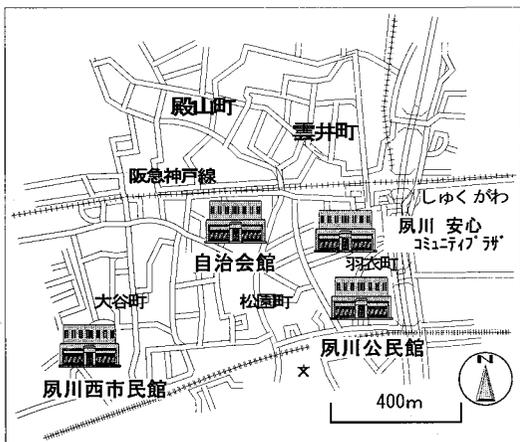
～夙川の事例

今回の調査では、夙川地域として殿山町、雲井町、名次町、南郷町を対象に調査を行ったが、殿山町と雲井町の状況について中心に考えていくことにする。

表8から、夙川地域には羽衣町にある夙川公民館（延床面積、1306m²）、夙川安心コミュニティプラザ（同、168m²）、霞町にある自治会館（不明）、そして大谷町にある夙川西公民館（同、320m²）が、それぞれVAの活動拠点施設として挙げられる。

図1は、これらの施設の配置状況を地図上に表した

図1 夙川地区の施設状況



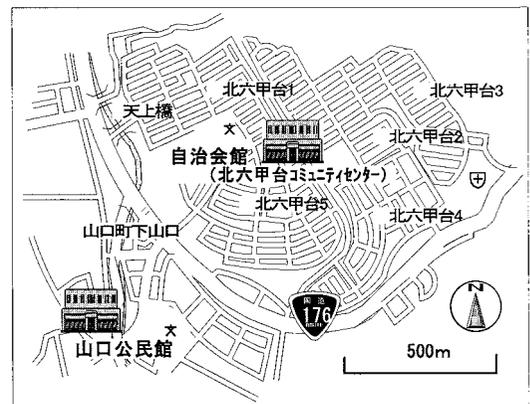
ものである。これをみると、殿山町、雲井町は阪急夙川駅を中心として、徒歩圏内に施設がまとまって整備され、利用しやすい恵まれた状況にあるといえる。

～北六甲台の事例

同じように、北六甲台地域の施設の配置状況を地図上で表したのが、図2である。北六甲台には、現在、自治会所有の自治会館（北六甲台コミュニティセンター、北六甲台5丁目）と、山口町下山口に山口公民館（延床面積、707m²）がある。平成12年3月には、北六甲台安心コミュニティプラザ（同、198m²）も開館する見込みである。夙川と比較しても、明らかに徒歩圏内の施設が少なく、同じ公民館でも延床面積は夙川公民館のほぼ半分であることが分かる。

しかし、これだけでは、北六甲台ではVAや公民館活動が盛んでないという決定的な要因が見えてこない。そこで、施設を運営する側の立場として山口公民館の職員の方に、利用者側の立場として北六甲台の自治会長に施設の利用状況についてそれぞれ聞き取り調査を行った。

図2 北六甲台地区の施設状況



* 山口公民館職員嵯峨さんへの聞き取りから

表10の公民館総利用件数も他の公民館とくらべても圧倒的に利用件数が低いのが山口公民館である。このことから、公民館での活動が活発に行われているとは言い難い。この状況については、「山口公民館は、山口、北六甲台、すみれ台と広範囲をカバーしているため、一つの公民館のエリアとしてまとまっていないんですね。公民館の稼働率（実際に使った回数を利用できる回数で割ったもの）も6割弱で、他の公民館と比較してもこれは低いです。これには、山口地域の人口密度が低いこと（山口支所管内の全世帯数は5,099世帯で、人口は16,963人である²⁵⁾）、それと個人的なグループでの利用が少ないこと（地域団体の会合がほとんどである）が関係しているのではないのでしょうか」ということであった。

25) 平成12年1月1日現在の人口。西宮市の公式ホームページ (<http://www.nishi.or.jp/~siryotoukei/suikai.html>) より

また、北六甲台の人の利用状況については、北六甲台から山口公民館までは坂道で中高年の方の足で徒歩30分くらいかかり、また途中国道176号線を横断しないといけないという地理的なこともあり、あまり活動は盛んではないということであった。むしろ、自治会館(北六甲台コミュニティセンター)での活動が中心ではないかということであった。

***北六甲台自治会長 浅田忠剛さんへの聞き取りから**

本当に北六甲台ではVAそのものが活発に行われていないのだろうか。この疑問に対しての会長さんから返ってきた答えは予想外のものであった。「サークル活動なんかは盛んにやってくれているんだけど、もう場所がなくてむちゃくちゃ。朝から晩まで(コミュニティセンターは)いっぱいいっぱい。葬式なんかが入ったら2日は使えなくなるしね。ついには、会館のロビーにたくさんの人が集まって何事かいなと思って聞いたら、実は子供会の会議をしてんだっていうんだよ。」すなわち、サークル活動は非常に盛んであるのに、活動する場所が慢性的に不足しているということである。

会長さんのお話をまとめると、VAなどの住民の自主的な活動の中心となっているのが自治会館(北六甲台コミュニティセンター)で、朝の9時から夜遅くまで開館している。施設の絶対的な不足といった状況を打開するため、安心コミュニティプラザが建設され、平成12年3月より開館の見込みとなった。これにより、少しでも混雑が緩和されることを期待しているということであった

これらの聞き取りより、北六甲台でVAへの参加状況が悪いのは活動そのものが活発でないということではなくて、VA活動をしたいと思っても満足に使える施設が不足しているという切実な状況があったためと考えられる。また、公民館にしても山口公民館だけでは地域が広すぎて全体をカバーしきれないということと、北六甲台から山口公民館に行くには、坂を上り下りし国道を越えないと行けないといった地理的な要因が関係していた。

こういった施設整備の不備が、北六甲台において「地域活動が盛ん」という評価は高いのに、VA活動への参加度合が低かったという今回の結果を招いたもの

と考えられる。

第3章 武蔵野市にみる地域コミュニティ政策

1章、2章では、西宮市の地域活動の実態を自治会(町内会)という既存の地域集団と、VAという新しい地域集団に分けて、地域施設政策と合わせて見てきた。

本章では視点を変えて、今回の4都市居住類型別調査において「地域活動が盛んである」という評価も、VAの参加度合も4都市の中で最も高いという結果であった(表1、表2参照)武蔵野市の状況を中心に見ていく。

表11は先ほどの西宮市と同じように、武蔵野市の場合について居住類型ごとのVAへの参加度合と「地域活動盛ん度」自己評価を整理したものである。これをみると、武蔵野市では西宮市と異なり「**地域活動が盛ん**」という評価の高い地域では、VA活動も活発に行われていたことを指摘できる。例えば、地域活動が「非常に盛んである」という評価の高かった中町スカイハイツ・ライオンズガーデン三鷹や都営武蔵野2丁目アパートでは、VA参加度合も揃って高くなっている(それぞれ65.0%、54.8%)という結果であった。すなわち、地域全体としての活動も、個人の地域参加への一形態であるVA活動も活発に行われているものと考えられる。

武蔵野市の地域コミュニティ政策が西宮市と大きく異なっている点として、町内会が全市的に組織されていないということ、そして地域施設では公民館が存在しない代わりにコミュニティセンターが地域コミュニティの中心になっているということがいえる。なぜ今回の調査において、西宮市と武蔵野市では「地域活動盛ん度」自己評価とVA活動の参加度合いの形態に違いが見られたのだろうか。そして、個人レベルの地域活動であるVAを盛んにしている要因は何であったのかということについて詳しく検証していく。

(1) 武蔵野市の地域コミュニティ政策の概要

先にも述べたとおり、武蔵野市は町内会が全市的に組織されていない全国でもユニークな都市である。これは、昭和22年3月、町内会と下部組織は終戦後の時局に合わないとして廃止されたことによるものである。このような状況の中で、現武蔵野市長の土屋正忠は著書『武蔵野一草の根からの行革』によると住民の自主参加を原則とする新しい自治、すなわち「一人一

表11 武蔵野市のVAへの参加度合と「地域活動盛ん度」自己評価

P<0.001

居住類型	地域活動自己評価	VAに 参加	VAに 不参加	地域活動			合計
				非常に盛ん	まあ盛ん	盛んでない	
I	吉祥寺南町	42.9%(18)	57.1%(24)	13.6%(6)	54.5%(24)	31.8%(14)	100%
	西久保1丁目	45.7%(16)	54.3%(19)	14.3%(5)	60.0%(21)	25.7%(9)	100%
III	武蔵野ビューハイツ・スカイハイツ	29.4%(5)	70.6%(12)	6.3%(1)	62.5%(10)	31.3%(5)	100%
	中町スカイハイツ・ライオンズガーデン三鷹	65.0%(13)	35.0%(7)	23.8%(5)	66.7%(14)	9.5%(2)	100%
	井の頭第二パークサイド・吉祥寺ハム	47.8%(11)	52.2%(12)	16.0%(4)	56.0%(14)	28.0%(7)	100%
IV	都営武蔵野2丁目アパート	54.8%(17)	45.2%(14)	33.3%(11)	60.6%(20)	6.1%(2)	100%
	都営住宅	50.0%(6)	50.0%(6)	23.1%(3)	46.2%(6)	30.8%(4)	100%
武蔵野市の合計		47.8%(86)	52.2%(6)	18.7%(35)	58.3%(109)	23.0%(43)	100%

人のプライバシーを尊重しながら、同時に新しい近隣関係を結ぶことが目指されることになる。これは具体的には「かつての部落共同体のように、個人が共同体に支配され、従属するのではなく、それぞれの自由な立場主体性を確保しながら隣人関係を取り結んでいけるようなコミュニティ」が必要であるという認識に基づくものであった。

その後、昭和46年2月に第1期武蔵野市長期計画が策定され、この長期計画によりコミュニティを武蔵野市の〈市民生活の基礎単位〉とするような位置付けが行われた。その結果、この当時の構想によって全市は8つのコミュニティ地区にわけられ、昭和51年に境南コミュニティセンター、昭和52年に西久保コミュニティセンターが続いて開館し、平成4年に17館目の本宿コミュニティセンターが開設された。(注、コミュニティ地区については、第一期市民委員会で8から11に変更された) 現在では17館のコミュニティセンターと分館2館および武蔵野中央公園北ホールがコミュニティ施設として利用されている。

武蔵野市のコミュニティセンターは、無料で市民の誰もが自由に利用できる多目的施設である。このコミュニティセンターを公民館や児童館、老人福祉の施設、婦人会館といった「年齢、世代、性別を輪切りにして目的別の専門館として別個に建っている」施設ではなく、「各世代と男女、つまりそこに住んでいる人全部がそのセンターを媒体として、新しい人間関係を作り結び、交流できるように」トータル的な機能をもつ施設であるとした点が武蔵野市の施設政策の特筆すべき点である²⁶⁾。

(2) 公民館か、コミュニティセンターか

—武蔵野市の住民主役の地域施設政策

これらのコミュニティ構想の中心的存在になったのが「コミュニティセンターを軸としたコミュニティづくり²⁷⁾」である。社会教育の中心施設である公民館とコミュニティセンターの理念型の違いについて、松下圭一は著書『社会教育の終焉』の中で、次のように整理している²⁸⁾。

公民館…教育委員会系、事業施設、
 専門・専任職員による運営・管理
 コミュニティセンター…首長系、集会施設、
 市民による運営・管理

その上で、都市型社会におけるコミュニティセンターの重要性を指摘し、「公民館は、市民管理・市民運営の〈地域センター²⁹⁾〉に切りかえるべきだ」と主張している。その理由として、「貸し部屋」としてのコミュニティセンターでは、文部省や県の講座補助金などとらわれることなく、かえって市民が自由に文化活動をおこないうる」ということと、「コミュニティセンターそのものの市民運営・市民管理によって、市民自治の訓練のチャンスとなる可能性をもつ」という2点

を挙げている³⁰⁾。

実際に「コミュニティシンポジウム報告書」(平成9年発行、武蔵野市)によると、武蔵野市において境南と西久保にコミュニティセンターをつくるときに、一定の要件を満たせば補助金や起債が出るという問題があったが、当時の後藤喜八郎市長をはじめとする行政側、議員側による徹底したひもつき施設反対により、起債も補助金もでない状況で自力でコミュニティセンターを設置し、それと同時に「**自主参加、自主企画、自主運営**」といった現在のコミュニティセンターの3原則が生まれたといういきさつがある。この自主3原則であるが、高田昭彦「コミュニティ構想のリニューアル—第5期武蔵野市コミュニティ市民委員会の挑戦」によると、「地域住民はその地域のコミュニティづくりを目指す「コミュニティ協議会」に**自主参加**し、コミュニティづくりを**自主計画**し、コミュニティづくりの拠点として建設された「コミュニティセンター」を**自主運営**していく³¹⁾」ということを指すものである。

また、武蔵野市役所市民文化課の土方さんへの聞き取りによると、その施設の内容も住民と行政の間での何回にも渡る話し合いによって決められるため、住民の意見が取り入れられたものとなっている模様である。

実際に、けやきコミュニティセンター(吉祥寺北町3丁目、平成元年設立、延床面積576m²)の事例をみてみよう。けやきコミュニティセンターがカバーしている地域は今回の調査対象地には含まれていないが、開館10周年を迎え記念誌が発行され、その中には住民の生の声が記載されていること、武蔵野市の20館のコミュニティセンターのなかでも活動が活発であるとの評価が高いことから事例として用いた。

～けやきコミュニティセンターの事例

住民の建設運動が実って念願のコミュニティセンターが設立されたわけだが、当時の様子について以下のような記述がある。「なにしろ、自分たちが分担を決めて、子供ルームはこういうほうがいいのか、みんなが責任を分担して、キッチンはどういう方がいい、じゃ私たちが見てきて、こういうことでやってもらおうとか。中味のことまでみなさんでやって。(中略)そこまで関わってやっていたんですものね。あの話し合いはすごかったわね、延々と。³²⁾」すなわち、住民と行政との念入りな話し合いによって、本当に住民が望む施設、必要な施設がつけられたわけである。

実際のけやきコミュニティセンターの施設の概要については、以下のようになっている。

ホール(48.7m²)、こどもルーム(43.1m²)、コミュニティルーム(49.7m²)、学習室(23.2m²)、ギャラリー(26.0m²)、和室2部屋(それぞれ10畳)、茶の間(8畳)、工作室(26.0m²)、キッチンルーム(12.0m²)

26) 土屋正忠『武蔵野—草の根からの行革』(東洋経済新報社、1984年)、p.91、92

27) 『武蔵野—草の根からの行革』(土屋正忠、1984年)、p.91

28) 松下圭一『社会教育の終焉』(筑摩書房、1986年)、p.30

29) 『社会教育の終焉』の中で、松下圭一は地域センターを「市民に身近な小型市民施設」と定義している。

30) 松下圭一『社会教育の終焉』(筑摩書房、1986年)、p.44

31) 高田昭彦「コミュニティ構想のリニューアル—第5期武蔵野市コミュニティ市民委員会の挑戦」『地域社会学会 No.101』(1999.11.30) p.5

32) 『まちをつくる』(けやきコミュニティ協議会、1999年)、p.60

「コミュニティセンター概要」(武蔵野市、1998年)より
また、月に一度開催される運営委員会によって基本的なコミュニティセンターが管理運営されている。これについては、「いいところっていうのは、問題点はその都度その都度、運営委員会で解決していったところですね」「2、3人でやるってことではなくて、必ず事務局に話しがいて、それから運営委員会で話し合います。だから、全員が知っているということになります。これはいいことだね。一部の人が何でもやるっていうことはないから³³⁾」という記述のとおり、運営委員会を中心とする住民の自主運営が大切にされ、それによってコミュニティセンターが成り立っている様子がわかる。

『まちをつくる』(けやきコミュニティ協議会、1999年)から

けやきコミュニティセンターの事例から分かったことは、コミュニティセンターそのものの建設、そして管理運営まですべてにわたって住民が深く関わっているということ、そのため自分たちの施設であり、自分たちで少しでも施設を盛り上げようという意識が徹底していることである。

(3) 武蔵野市における施設配置状況

実際の20館のコミュニティセンターの配置であるが、「武蔵野市のコミュニティ」(生活文化課)によると、昭和46年2月に策定された武蔵野市長期計画の中のコミュニティ構想に基づいてコミュニティセンターが整備されてきたわけだが、行政の役割として「上から機械的にコミュニティの区分を決定することなく、むしろ構想をしめすにとどめ、市民施設をそれぞれの地域に平等に、またそれぞれの地域の特殊性に応じて適切に配置し、市民自身のコミュニティづくりをバックアップすべきである」と明確に記されている。

コミュニティセンターを中心拠点として地域コミュニティを築いていこうとしているのだから、その地域区分は重要な意味を持つはずである。この地域区分に関しては「武蔵野市の生活空間は、駅勢圏・コミュニティ地区・コミュニティセンターといった三層性をもつ。」ものであるという考えのもと、「市域を学区区や出張所管轄区によって機械的に分割したのではなく、コミュニティ相互の交流などが考慮されている。しかも地区配分は、現実の老人クラブ、保育所などの配置と対応している点においては、また地域生活によ

り密着している」という、**現実の生活範囲に即したものと**なっている点が強調されている。これは、武蔵野市においてはコミュニティセンターがきめ細かく徒歩圏内に配置され、地区割も一部例外もあるが範囲1^キ以内になっていることからわかる。

この武蔵野市の施設政策のきめこまやかさは、西宮市の公民館政策と比較することでより明らかになる。表12は、それぞれの市が独自に設置した住民の自主的な活動(VA)に対応する施設の状況について、西宮市では公民館と市民館、そして武蔵野市ではコミュニティセンターを比較したものである。なお、西宮市の施設については「コミュニティの活動拠点となる**公民館、共同利用施設、市民館等の地域施設については、おおむね小学校区にいずれか1館を配置する**³⁴⁾」という設置基準が設けられていたことと、最近では震災復興事業の一部として安心コミュニティプラザの設置が盛んに行われているという状況を勘案して、公民館(24館)、市民館(21館)に加え運輸省の設置補助によりつくられた共同利用施設(10館)、阪神・淡路大震災復興基金の一部補助によりつくられた安心コミュニティプラザ(10館)を含む65館も比較の対象にした。

これをみると、市独自の施設である公民館、市民館だけでは施設の絶対量が明らかに少なく、さらに共同利用施設や安心コミュニティプラザをあわせたとこでも、「1人あたりの延床面積」も「1館あたりの平均延床面積」も武蔵野市の20館のコミュニティセンターには及ばない状況である。武蔵野市のコミュニティセンターがどれほどきめこまやかに配置されたものであるかが分かるだろう。

以上のことからまとめると、武蔵野市では独自のコミュニティ政策の結果生まれたコミュニティセンターが地域の核になっているということである。また、コミュニティセンターの性格として、地域の実情に応じた多様な運営、管理が可能であるということ、公民館と異なり制約が少ないということがいえる。そのため、武蔵野市では計画段階から実際の管理、運営にまで住民が深く関わっており、施設の内容も自由度が大きく住民のニーズにより近い理想的な施設となっていることがいえる。

また、施設の地区配分も学区区や行政区分に関係なく、きめこまやかになされているため、住民が利用しやすい徒歩圏内に施設が十分に配置されており、西宮市よりもVAに参加しやすい状況にあったということがいえる。

表12 西宮市と武蔵野市の施設政策の比較

該当する施設	西宮市		武蔵野市
	公民館+市民館	公民館+市民館+共同利用施設+安心コミュニティプラザ ³⁾	コミュニティセンター
人口	419,225人	419,225人	130,817人
総施設数	45館	65館	20館
施設の延床面積	29,514.36m ²	37,069.2m ²	15,452.4m ²
1館あたりの人口	9316.1人/1館	6449.6人/1館	6540.9人/1館
1人あたりの延床面積	0.070m ² /1人	0.088m ² /1人	0.118m ² /1人
1館あたり平均延床面積	655.9m ² /1館	570.3m ² /1館	772.6m ² /1館

33) 『まちをつくる』(けやきコミュニティ協議会、1999年)、p. 1

34) 西宮市「第3次西宮市総合計画(原案)基本構想・基本計画」(平成10年)、p. 61

結論 ～地域施設政策の重要性

これまで本稿では、4都市居住類型別調査の「地域活動盛ん度」自己評価、VA参加状況をもとに、既存の地域集団と、VAという新しい地域集団の2つの側面に分けて、武蔵野市と比較検証することで西宮市の地域コミュニティ政策の現状を把握しようと努めてきた。そこで、明らかになったのは地域活動とはいえ各自治体ごとにその形態は多種多様であり、一概に地域活動としてひとまとめにすることが困難であるということである。

その結果を整理すると、西宮市において「地域活動が盛んである」という評価の高かった地域では、自治会とその関連団体をベースに活発な活動が行われていたということ、またその活動に対する住民の評価は、同一地域内において集団としての共通性や方向性があったということである。

また、個人レベルでの地域参加の一形態であるVAの参加度合いであるが、西宮市では「**地域活動が非常に盛ん**」という評価がなされた地域で、VAへの参加者が少なかった。VA活動が活発に行われていなかった背景には、西宮市の地域施設政策が大きく関わっていたと考えられる。西宮市のコミュニティ施設については「コミュニティの活動拠点となる**公民館、共同利用施設、市民館等の地域施設については、おおむね小学校区にいずれか1館を配置する**⁴³⁾」という設置基準が設けられていたが、今回の調査対象地の地域施設配置状況を見ると（表8参照）、小学校区内に地域施設が整備されていない地域もあり、施設の絶対的な量の不足がまず指摘できる。これは、**1中学校区に1館**という公民館政策においても言えることで、北六甲台のように国道を越えた旧村地区内に公民館があり、生活（徒歩）圏内に即していないという不備もみられた。一方で、西宮の施設政策は行政主導型であるため、施設の内容そのものも和室、会議室、実習室、講堂といった変化のないもので、住民のニーズに即しているとは言い難い。これらの事情が、西宮市において「地域活動が非常に盛ん」という評価が高かった地域においてVAの参加者が少なかった要因であったと考えられる。

西宮市に比べて、武蔵野市では住民が計画段階から実際の施設の管理、運営にまで深く関わるコミュニティセンター方式を採用することにより、住民の意見が取り入れられた自由度の大きい施設構成になっており、住民のニーズにより近い理想的なものとなっている。また、コミュニティセンターの設置についても学校区や行政区分にこだわらない地域の特性に応じた柔軟なものであったため、よりきめこまやかな施設政策が可能になったといえる。これらのことから、武蔵野市では「**地域活動が盛ん**」という評価の高い地域において、VA活動も活発に行われていたという結果につながったのではないだろうか。

最近では、西宮市においても地元住民に管理、運営をまかせる安心コミュニティプラザが次々と建設されているが、公民館に比べて施設の規模が圧倒的に小さいこと（それぞれの1館あたりの平均延床面積は公民館952.7m²、安心コミュニティプラザ231.8m²）、そもそもの施設の設置目的が「高齢者、障害者等を支援する福祉コミュニティづくりの推進」であるということから、VAに対応した施設であるとは言い難い。

西宮市において、VA活動へのより多くの住民参加を望むならば、住民の自由なVA活動が活発に行われていた「武蔵野型」施設政策を参考にした上で、例えば北部地区に広い駐車場を完備した自由度の高いコミュニティ施設を整備するなど、地域の現状に即し量的にも質的にも十分な西宮市独自の施設政策が必要である。住民は個人の趣味・目的に応じた自主的な活動であるVAへの参加を強く望んでいるのである。

<参考文献>

- 近江哲男『都市と地域社会』早稲田大学出版部、1958（1984）年
 越智昇編『都市化とボランティア・アソシエーション～横浜市における市民の自主的参加活動を中心に』、1986年横浜市立大学市民文化研究センター
 大谷信介『現代都市住民のパーソナルネットワーク～北米都市理論の日本的解説一』ミネルヴァ書房、1995年
 大谷信介、木下栄二、後藤範章、小松洋、永野武編著『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房、1999年
 菊地美代志、江上渉『コミュニティの組織と施設』多賀出版、1998年
 高田昭彦「コミュニティ構想のリニューアルー第5期武蔵野市コミュニティ市民委員会の挑戦」『地域社会学会会報No. 101』（1999. 11. 30）
 土屋正忠『武蔵野 草の根からの行革』東洋経済新報社、1984年、『武蔵野から都市の未来を考える』東洋経済新報社、1996年
 土屋正忠、武蔵野市建設部交通対策課、馬庭孝司『ムーバス快走す～1通の手紙から生まれた武蔵野市のコミュニティバス』ぎょうせい、1997年
 牧野 厚「財産区とまちづくり」『まちづくりとコミュニティ施設』宝塚市・関西学院大学地域環境研究室、1995年
 松下圭一『社会教育の終焉』筑摩書房、1986年

<参考資料>

- けやきコミュニティ協議会「まちをつくる」1999年
 財団法人阪神・淡路大震災復興基金
 「阪神・淡路大震災復興基金事業概要」1998年
 西宮市「第3次西宮市総合計画基本計画（案）」1998年
 西宮市地域振興課「西宮市の市民集會施設」1999年版
 西宮コミュニティ協会、1997年
 「コミュニティの現況と課題～その後」
 西宮市市民局地域振興部地域振興課
 「地域団体等名簿」1999年版
 西宮市立公民館「公民館活動実践集」1998年版
 西宮市立公民館「西宮市公民館グループ名簿」1999年
 松山商科大学社会調査室、1989年
 「地方中核都市におけるパーソナルネットワーク」
 武蔵野市「コミュニティセンター概要」1998年
 武蔵野市「武蔵野市民意識調査報告書」1999年
 武蔵野市コミュニティ研究連絡会
 「コミュニティシンポジウム報告書」1999年
 武蔵野市生活文化課「武蔵野市のコミュニティ」不明
 武蔵野市生活文化課
 「コミュニティシンポジウム報告書」1996年